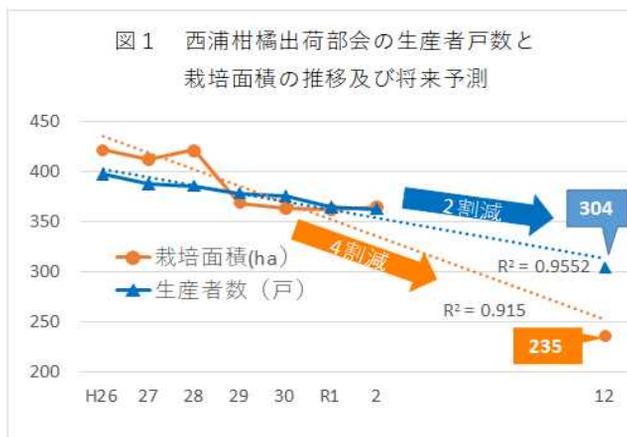


○ 取組の背景

- 1 沼津市西浦は温州みかん‘寿太郎温州’を主力とした本県有数の柑橘産地である。
- 2 産地の半分が16度以上の傾斜に立地し、園地条件の悪さが規模拡大を阻む要因となっている。
- 3 生産者1人あたり面積は1ha程度と、大規模農家が少ない。
- 4 将来的に生産者戸数2割減、栽培面積4割減の予想となっている。
- 5 樹園地は集積しにくいことから、農地の流動化が進んでいない。



○ 課題・目標

- 1 人・農地プランの作成による西浦みかん将来ビジョンの明確化
 - ・集落ごとに生産者同士の話し合いの場を設けて、現状の課題を抽出する。
 - 【人・農地プランとは】 人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」
- 2 樹園地における農地集積の推進
 - ・農地の貸出情報を筆ごとに集約し、担い手へ提供する機能を整える。
 - ・規模拡大意向者や新規就農者への集積のほか、整備中の代替地等、優良農地を確保する。

普及指導員の活動

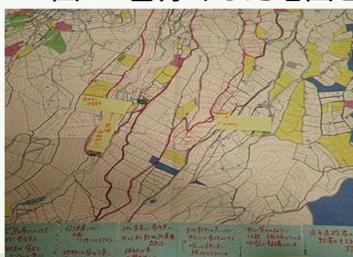
○ 推進方向1「人・農地プランの作成による基盤整備候補地の掘り起こし」

沼津市、農業委員会、JAなんすん、農地中間管理機構等と連携して推進した。

- ・R2年4月～：生産者272名から回答を得たアンケートを基に、西浦8集落について農地の利用意向を図化した(図2)。
- ・R3年6～7月：8集落について、生産者同士の話し合いの場を設定し、地図を基に現況把握しながら発言を促し生産者の意向を把握した(図2)。
- ・R3年7月：基盤整備の話題があった1集落7名に対して整備事業説明会を行った。生産者には、持ち帰り候補地等について検討してもらった。
- ・R3年9月：希望する生産者4名から筆または字ごとに候補地を聞き取り、地図に色塗りした(図3)。
- ・R3年10月：希望する者、関心のある者計6名を集め、地図で色塗りした箇所や当日提案された7箇所について3Dの地形画像で立体距離計測した(図3)。

図2 色分けした地図と集落での話し合い

図3 地図と3D画像で候補地を検討



○ 推進方向2「円滑な農地貸借システムづくり」

生産者、農地利用最適化推進委員、農業委員、JA、市、農地中間管理機構がそれぞれ役割を持ち、農地バンク事業を活用して円滑な農地貸借がすすめられる仕組みづくりを提案した。

- 【提案した内容】①相談窓口をJAとする ②農地の把握は筆ごとに行う ③農地をリスト化する ④地権者は借受者を指定しない ⑤JA(産地)内に組織を設立する など

■人・農地プランの作成

◇各集落における生産者同士の話し合いにより、担い手95名を明確にするとともに、担い手へ農地集積をはかるとい地域の合意が得られた。

◇このままでは産地を維持することが難しい、という共通認識が生まれ、危機感が共有された。

◇主な課題は「後継者不足」「急傾斜」、特に若手農業者からは「基盤整備」「農地貸出情報の提供」の要望があった。

図4 各集落の面積と担い手数

集落名	耕地面積(ha)	担い手数(人)
西浦木負	45.2	10
西浦河内	56.8	10
西浦久連	76.5	24
西浦平沢	26.1	8
西浦立保	37.2	11
西浦足保	29.8	4
西浦久料	26.7	10
西浦江梨	64.1	18
合計	362.4	95

■4候補地の選定

◇希望者から個別に候補地を聞き取りして、検討用に図化し(図3)、1箇所ごと3D地形画像で把握しながら確認した(図5)。

◇今後、可能性のある農地について、事業実現性を検討していく。

図5 事業可能性のある候補地

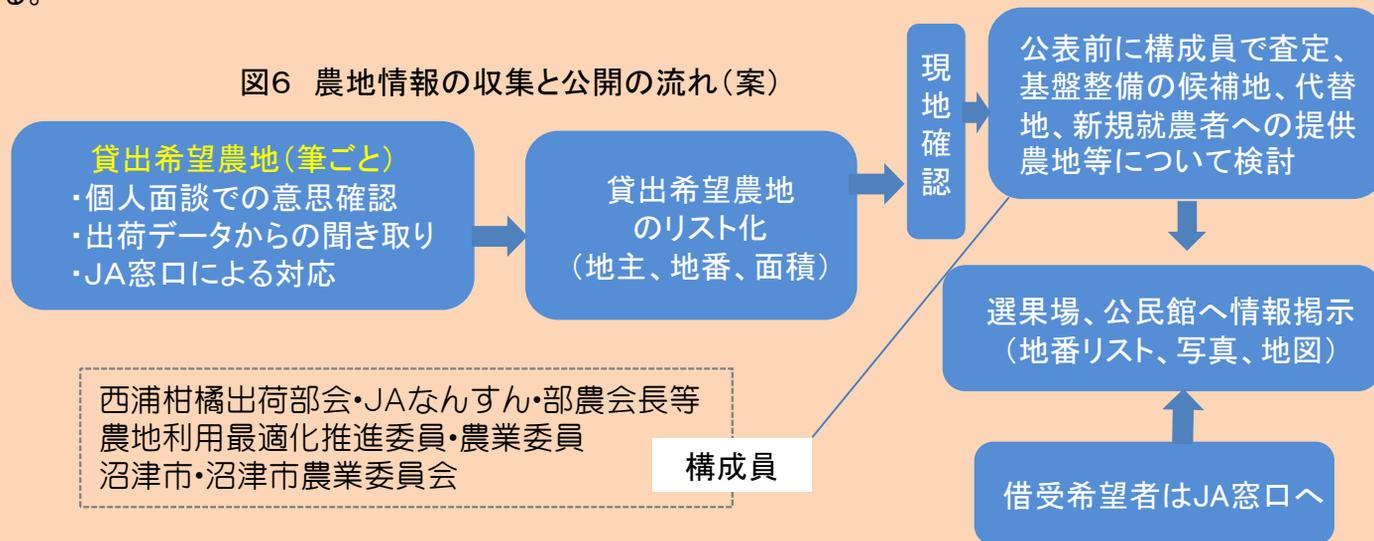


■円滑な農地貸借システムの構築

基盤整備候補地の洗い出し、担い手への面的集約、荒廃農地の発生防止等をねらい、農地貸借をすすめる仕組み(図6)を来年度5月以降に稼働させるよう関係者と打ち合わせている。

個人面談で、農地の貸出意向を聞き取りしてリスト化する。関係者で検討後公表して担い手へつなげる。

図6 農地情報の収集と公開の流れ(案)



今後の方向

■基盤整備候補地の選定と事業推進の中心となる生産者を選び組織をつくる。

■貸借システムをJAを中心として運用してもらい、担い手へ農地を集積する。

■作業性の良い西浦型スマート果樹園の完成

・まとまった緩傾斜地の造成により、機械化・省力化が可能となる。

・作業性向上による労働時間削減と日射条件改善による品質向上をはかり、更なるブランド化を進める。

■新しい選果場整備を控えており、今後も将来にわたる西浦みかんの発展を支援する。